



イメージキャラクターの福(ふく)くん。茨木市社協のTwitter (@ibaraki_syakyo) のメイン画像にもなっています。

こどもボランティア部『福』



～数年後を見据えて、ギュギュっとつながる～

茨木市社協(以下、市社協)では、こどもボランティア部『福』(以下、ボランティア部)を昨年2月に立ちあげました。

中学生が、それぞれのペースで自分たちのできる活動に取り組んでおり、市社協の学習支援、生活支援事業をきっかけに参加したメンバーもいます。

さまざまな悩みや課題を抱える子どもたちもいますが、それぞれの趣味や得意なことを生かして、誰かの役に立てるということを経験し、メンバーの子どもたちの自信につながっています。

ボランティア部の結成にあたり、イラストが得意な中学生のメンバーがイメージキャラクターを制作し、グループ名を福祉から一字を取って「福(ふく)くん」と名付けました。

4月に予定していた「みんな集ま

れ!!ボランティア」へのブース出展を目標に、メンバーで出し物を検討していた矢先、新型コロナウイルスの影響でイベントが中止に。これをきっかけに、「何でもできるわけじゃない。でも何かはできる」をモットーに活動を進めています。

これまでに、ひとり暮らし高齢者の家の片付けや荷物運びをはじめ、子ども食堂のインタビューや施設のお手伝い



絵を描くのが好き!! 看板を作成しました。



空いた時間を生かして! 診療予約のお手伝いをしています!

などに取り組んでいます。

市社協の安藤八枝さんは、「この活動を通して、子どもたちが今後、辛い経験や困難に直面しても立ち向かえるように、子どもたち同士のつながりを創ることや市社協が気軽に相談できる居場所(役割)となれるようにしたい」と話しました。

また、活動を重ねるごとに、子どもたちとの関係性はもちろん、返事や意志表示もしてくれるようになるなど、うれしい変化も生まれています。

中学3年生の東琉奈さんは、友達から誘われたのが活動のきっかけで、施設の壁画作成が一番記憶に残っているそうです。今では、1人でも活動してくれています。今後の目標を聞くと「運動が大好きなので、高校生になったら、スポーツ系の部活に入りたい」と話しました。

新たな一面を知った安藤さんは、「スポーツボランティアや地域で行っている



左から中学生の東 琉奈さん、市社協の安藤 八枝さん

風船バレー(🎈)にもチャレンジできるように調整したい」と意気込みました。

子どもたちの成長を肌で感じ、一人ひとりのペースに応じて一緒に考え取り組むボランティア部の活動に、これからも目が離せません。

🎈風船バレー...障がいの有無に関わらず一緒にプレーでき、年齢を問わず、誰でも一緒に参加できるスポーツ。参加者全員が風船に触れてからでない、相手コートへ返してはいけないルールのため、参加者同士で自然とコミュニケーションを図ることができます。